

Title	ごあいさつ
Author(s)	川勝, 傳
Citation	癌と人. 14 p.1-p.2
Issue Date	1987-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24070
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ご あ い さ つ

理事長 川 勝 傳*

皆さまには、益々ご清祥のこととおよろこび申しあげます。

平素は、財団法人「大阪癌研究会」に対しまして格段のご協力をたまわり厚くお礼申しあげます。

高齢化社会の到来が言われるようになって、種々の問題が新聞、テレビをにぎわしています。その大半は医療、保健問題であります。

65才以上の人口は、昭和25年に4.9%であったのが、30年には5.7%を占め、60年には10.3%と一割台に乗って参りました。これにともない3大成人病（がん、脳卒中、心筋梗塞）はもとより、“老人ぼけ”“ねたきり”などが話題となり社会的、経済的問題になっている昨今であります。

癌による国民の死亡は依然として増加の一途をたどり、昨年度の犠牲者は18万7000人を数え、死因の第1位を続けています。しかも、働きざかりの年齢層に集中しています。国民の健康保持と福祉の向上を考えると、まことに憂慮すべき事態であります。

われわれは多年にわたり、がん予防のための知識の普及と、早期発見のための検診の拡大、そして学術研究の奨励助成に努めてまいりました。とくに、今後わが国において発生の増加が予測される、いや現実となっている、乳がん、大腸がんを中心に、その早期発見に努力してまいりました。昭和61年度も早期がんの発見・治療によって多くの人々に感謝されています。

このように本研究財団の目的が遂行できますのも、大阪大学微生物病研究所附属病院外科、放射線科の研究と実践行動のたまものでありますが、この活動を深く理解していただいて、多大なご協力、ご支援をたまわっております。大阪府下各市町村の自治体、大阪商工会議所、吹田母子会、財団法人「大阪対がん協会」に対しまして、厚く御礼申し上げるとともに深く感謝の意を表したいと存じます。

保健活動には、自らの健康は自ら守ることを基本として、地域社会の自主的發展と住民参加体制の充実を図ることが要請されます。

本研究会としては、各自治体、対がん協会、大阪商工会議所あるいは各事業体の御理解とご支援をえまして、わが国そして大阪府のがん対策事業の一翼を担って、がん征圧のため活動を広げてゆきたいと念願していますが、とくに明るく楽しいがん検診体制をつくりあげてゆきたいと存じます。

いま、われわれにわかっていることは、がんにかかっても早期に発見してもらって、早期

*南海電気鉄道株式会社取締役会長

に治療してもらえば死なないということでもあります。がんになっても助かるということになれば、高齢化社会もぐんと明るいものになるでしょう。

がん征圧を通じて、本研究会の活動も一層重要な役割を持つものであることを自覚し、今後ますます各方面の活動をさかんにするべく努力を重ねてまいり所存でございますので、皆さまの強力なご協力、ご支援を切にお願い申し上げます。

